

平成 30 年 12 月 15 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 30 年度 第 11 回

ゴーン事件の背景にあるもの

本年最後のフォーラムです。

レジュメに従って、論語の視点から参ります。その中で、時事評論も申します。

本日は季氏篇 13・14 です。今井副理事長の素読は、目の前に状況が浮かんで来るような感じで大変良うございました。

【十三】陳亢 伯魚ちんこう はくぎょ とにいわしてまたいぶんあこたいわいまかつひと
りたりはしにわすいわしまなこたいわいまし
りまなもついなりしりぞしまなたじつまたひとたりはし
にわすいわれいまなこたいわいまれいまなもつた
こなりしりぞれいまなこふたものきちんこうしりぞよろこいわ
いちとさんえしきれいきまたくんしそことおき
一を問いて三を得たり。詩を聞き、礼を聞き、又君子の其の子を遠ざくることを聞くなり
と。

孔子には伯魚（鯉）という息子がいました。お弟子さん達は、孔子も人の親だから息子には特別なことを教えるだろうと、何となく疑いの目をもっているわけです。弟子の一人、陳亢が直接伯魚に聞いているという問答ですが、廊下で二人が立ち話をしているような状況が浮かびます。

陳亢が伯魚（鯉）に尋ねました。

「あなたは孔先生から特別に何か教わっていますか」

伯魚が答えました。

「特別なことは何も教わっていません。しかしよく考えてみると、庭に父が立って考え事をしてた時、私が小走りで庭を横切りました。すると父が『詩を勉強したか』と聞くので、私が『まだです』と答えると、『詩を学んでいなければ、人さまが納得するような話が出来ないから、詩心を持ちなさい』と言われました。私は退いて部屋に戻って詩の勉強を始めました。また別の日に父が一人で立っていました。私が小走りで庭を横切ると、父が『礼を学んだか』と聞きました。私は『まだです』と答えました。すると、『礼を学

ばなければ、社会で独り立ちが出来ない』と言ったので、私は部屋に戻って礼を勉強し始めました。私は父から直接この二つを聞いています。」

陳亢は帰って来て喜んで言いました。

「今日の一つ質問をして、3つのことを得た。詩心を持ちなさい、礼を学びなさい、これは私も勉強しなければならない。また、孔先生が自分の子を特別扱いしていないのだということを実感した。」

人が人として成長するには、聞くべき時に聞くが良いし、会うべき時に会うが良いと感じます。自分が世の中に出て、世の中の役に立つには、誰かからものを教わらなければなりません。誰も教えてくれなければ、小さい頃の体験が後になって芽を吹いてくると考えるべきであろうと、この文章をみて思いました。

小さい頃の体験ということで、今騒がれているゴーン事件について考えます。

ゴーンさんは一体、誰にもものを教わったのでしょうか。お金の稼ぎ方は、上司に抜擢されながらだんだん覚えていったのでしょうか。ただ、人間的に自分を磨くようなことを教わった気配はありませんね。ということは、自分自身の体験で世の中を生きているのだらうと思います。ゴーンさんは小さい頃、かなり貧しかったそうです。大人になって稼げるようになったら、小さい頃の過酷な生活体験が芽吹いてきて、強欲になっていったのだと思います。

給料を沢山貰いたい、豪華な家に住みたい、身内にいい格好をしたい・・・こういう欲望は誰しも持っています。ゴーンさんはその欲望に忠実ただけで、別に珍しいことではありません。ただ、ちょっと大がかりでした。役員報酬20億ですから。だいたい日本の会社なら、社長の給料が新入社員の10倍くらいでしょう。先週の東京フォーラムで、学生時代フランスに留学をしていたという方が言うておられましたが、所得格差に対する日本人とフランス人の考え方は全く違うそうです。フランスでは、トップの報酬は新人の1000倍だそうです。10倍くらいなら手が届くかと思うけれども、1000倍ではとても届きません。

ですからゴーンさんは、自分でもの凄く給料を貰っているという意識はないと思います。もっと貰って当たり前だけれども、世界水準が20億位だから、それくらいで我慢しておこう。でも、株主総会で皆が色々と言うものだから、少し調整して後で貰おう・・・と、それが今回の叩かれる根っこになっています。そもそも役員報酬に対する感覚がフランス国民と日本の国民では違い過ぎますから、それに対して敏感に反応し過ぎたのでしょう。

私が思うに、今回のゴーン氏の事件は、明らかにフランス政府と日本政府の経済戦争です。ゴーンさんは、ハメられたのだと思っています。勿論それだけの内容があったから、そうなったわけですが・・・。

では、ゴーン事件の背景を掘り下げましょう。

フランス政府のマクロン大統領は、まだ大統領として居続けたい。そのためには今、国民のための失業対策のパフォーマンスをしなければならない。ついては、ルノーが日産を吸収合併して、日産の工場をフランス国内にもっと造らせるべきだと考えているわけです。ルノーの筆頭株主はフランス政府ですが、議決権を上げるべくフランスの国内法を改正したから、ルノーに対して更に強く言えるようになった。結果としてゴーンさんはルノーのトップとして居続けることが出来たわけですが、その条件として日産の吸収合併を約束させられたのでしょ。

それ以前にも（マクロン大統領がまだ大臣の頃）同じような話があったのですが、その時はゴーンさんは日産側で、フランス政府が日産に手を突っ込まないように防御策をどんどん打っておいたわけです。今度はフランス政府側に立ったわけだから、逆に吸収合併を進める方向になってしまいました。日産の役員会などで、合併話をし始めたのが2月頃です。2月頃から急転直下でどんどん動き出したので、そうなるは大変だから、内部が揉めて、日産側も動き出したというわけです。

では、日本政府の思惑は何か考えます。

先ほど、フランス政府が国内法を変えたと申しましたが、政府は法律を変えられます。最近の日本の事例は、種子法を廃止して、外国からの種が入って来られるようにしました。これについてはロシアなどは逆で、自国の種子で自国の農業を守る方向です。ですから今、日本の農業は目に見えない格好のストライキをしています。

水道もそうです。世界各国は民間に委託していた水道事業を、賠償金を払っても自治体に戻すよう法改正をしつつあるところです。しかし日本政府は、自治体に公営事業売却を促すPFI法改正案を成立させて、外国の企業も参入できるように変えました。

入管法もしかりです。今でさえ日本は移民大国4位という位置づけですが、もっともっと外国人を入れようとしています。これは裏に、自衛隊員が足りないという悲鳴が大きな原動力になっているという話もあると聞きました。ですから一番得体の知れない法律ではないかと思います。2、3年経つと、この入管法が <こういうことだったのか> と分かるのでしょ。

ですから、農業しかり、水道しかり、入管法しかりで、見えない部分で日本の国に外国の企業が入って来られるよう政府は法律を変えています。

そういう前提で今回のゴーン事件を見ます。

仮に日産がルノーに吸収合併されたとします。そうすると外国資本は、<日本という国は、あの日産を簡単に売り渡す国なのだ。ならば、自分たちも日本でビックビジネスが展開できるのではないか> ということで、少しずつ少しずつ入り込んで来るでしょう。見たところ安倍内閣は特定の企業が入って来やすいように、少しずつ法律を改正しているようですが、今回の場合は政府が予期していない外国の大企業がどんどん入って来るきっかけになる。そうなる危険を考えると、官房長官が手を打ったと思えます。

ですからゴーン氏が逮捕された時、担当大臣がすぐにフランスに飛んで行って、日本政府は静観する旨を伝えています。静観するのなら何も言わずに見ていけばよいものを、何故わざわざフランスへ言いに行くのでしょうか。大臣が自分の思惑だけで動くはずがありませんから、安倍さんと官房長官が話をし、合併を止めるべきだと手を打ったのだと私は感じます。

そう考える根拠は、空港での逮捕劇です。飛行機の到着が分かっている、特捜部が待ち構えていました。ゴーンさんは東京都知事との対談が企画されていて、そのための来日だったのですが、なぜそんなことを地検が知っているのでしょうか。ということは、東京都も一枚噛んでいるということになりますね。当然、地検も噛んでいます。

だいたい地検のやり方は、こういう事件を作ろうと思ったなら、青図をこしらえて、パズルを当てはめるのが得意な所です。最初は脱税と業務上横領、特別背任罪で逮捕しようと思ったけれども、資料が足りないから虚偽記載でいこうと決まったようです。虚偽記載で起訴された企業は、ライブドアにしても西武鉄道にしても、直ぐに上場廃止の話になるわけですが、今回はそれが出ません。なぜでしょうか？・・・政府の思惑が後ろに見え隠れしませんか？ 証券取引所が認めればすぐにそう出来るはずにもかかわらず、声を上げないのは、政府が手を回しているからだと思えます。

一緒に捕まったケリーさんに至っては、金融庁に問合せして虚偽記載にはならないという返事を貰っていたということですが、だいたい金融庁に限らず官庁は言葉をぼかして相手になるほどと納得するような言い方をするのが普通です。政府の思惑でそういう答え方をしたのでしょう。

ゴーンさん側の話として書いてあるものを読むと、日本の法律に引っかからないように色々調べて、合法的な手段で操作するよう指示をしてやっているのだから違法であるわけがない。誰だってやりたいと思っている事を、ちょっと大がかりにやっただけだというわけです。ですから、今はまだ綱渡りで、どちらに転がるか五分五分です。ハメられたのだから、ハメられたということを立証すればよいわけで、無罪になる可能性も十分あると

私は思っています。そして根っこにあるのは、日本政府とフランス政府の経済戦争です。

日本という国は、ぬるま湯に浸かっています。かつて日本は、アメリカに次ぐナンバー2の経済大国でした。今は中国に抜かれて、メディアも普通にナンバー3と言っています。いつからナンバー3になったのでしょうか。その時、国民にショックを与えるような報道をメディアはしていませんね。ショックもなく、うやむやなうちにナンバー3になってしまったのですから、まさに茹でガエルです。

今、メディアで「健康長寿」や「人生100年時代」という言葉が当たり前に使われるようになりました。願望もあるでしょうが、根っこにあるのは、年金の話や介護といった政府にとって都合の良い話が見え隠れするから、言い続けているわけです。

また、日本人の平均年収という言い方が、かつては400万だったのが、300万になり、ここ数年は200万と言い出しました。1週間くらい前から、年収80万～128万円という言い方が出て来ました。

日本の、特にメディアで、知らず知らずの間に何か世の中が変わっていると感じたなら、いつからそうなったのかを探る必要があります。そうすると政府の思惑が見えますし、同時に日本人の特性も見えます。

そこで、今日のテーマでもある『木内信胤語録』には、「**目先の問題は、小さな局面なので、それだけ見ていると、大きな時代の流れはつかめない。**」という言葉があります。大所高所に立って、大きな見方でものを見る癖をつけなければいけません。ゴーン事件についても、新聞でちょこちょこ色々なことが出て来るけれども、それだけを追いかけていたのでは、時代の流れ・政府の思惑は見えません。立ち位置を変えて見ると、全体が見える。大きな時代の流れ、大局が見えます。

また、木内信胤先生は「**人間社会は悟りによって向上する**」と言われました。では、悟りとは何か。悟りとは、直観です。はっと思ふことです。はっと思つたことが、本当の知識になり、自得（本当の自覚）に繋がります。木内信胤先生は、横の知識を沢山仕入れて縦の学問をすることによって「総合的直観力」が生まれると言われました。

我々は学びを通じて「総合的直観力」を身につけることを目指しています。判断の三原則で全体が見えるようになる。そしてそれを一歩先へ進めると、悟りに繋がります。小さな悟りを積み重ねると、はっと大きな悟りに繋がります。大きな悟りが「総合的直観力」ということになります。

【十四】 邦君の妻は、君之を称して夫人と曰い、夫人自ら称して小童と曰い、

ほうじん これ しょう くんふじん い こ いほう しょう かしょうくん い いほう ひと これ
邦人 之を 称して君夫人と曰い、諸れを異邦に 称して寡小君と曰い、異邦の人 之を
しょう またくんふじん い
称して亦君夫人と曰う。

一国の君主が自分の奥さんのことを言う時には「夫人」と言い、夫人が自分のことを言う時には（子供くらいの知識しかないと謙遜して）「小童」と言う。国民は、謙遜の美德をもった夫人を「君夫人」と言い、外国に対して夫人を呼ぶ時は（君に従っている徳の厚い夫人ということで）「寡小君」と言う。外国の人が夫人を呼ぶ時には「君夫人」と言う。

なぜ孔子がこういう解説をしたかは不明です。ただ、その時代は呼び方が乱れていたの
で、わざわざ孔子が説明したのだらうという解説もあります。あまり気にしないで良いと
思います。ただ、人の心を傷つけるような言い方はしない方が良いでしょう。

以前お話しましたが、奄美大島で西郷隆盛と愛加那の住んでいた家を今も守っている子
孫の方と会って話をした時に、大河ドラマ「西郷どん」の原作者の林真理子さんが愛加那
のことを「島妻」ではなく「二号」と呼ぶので非常に腹立たしく思っているとっておら
れました。

恒例の質問

では、恒例の質問を致します。今年一年を振り返ってお考え下さい。

- 今年は良い年だったと思う方
- 今年は比較的嘘をつかなかった方
- 今年は有難うと言い、有難うと言われることが多かった方
- 今年一年間、健康法を続けている方

少し掘り下げます。ご自分のやった健康法は、やろうと思ってやったのか、それとも無
意識でやっていたのですか？

意識的にやることが進んでいくと、当たり前になって、無意識のうちに身体が動いてし
まう。それが良いと思います。来年は健康法も無意識で出来るとよろしいですね。

- 今年は自分磨きを無意識のうちにしていると思う方

・・・いませんね。では、

- 今年一年、一所懸命に自分磨きをしたという方

これは皆さん手が挙がりました。是非、来年は無意識で動けるとよろしいですね。

- 昨晚寝る時に、明日以降を過去形でイメージして眠れた方

数名、手が挙がりました。もっと増えるといいなと思います。

来年のキーワードは、無意識が良いと思います。無意識に出来るようになるまで自分を習慣づけられるかどうかです。

干支の話

来年の干支は「己亥（きがい・つちのとい）です。「亥」は一言で言うと、爆発です。今まで有り得なかったことが、突如として起きること。ですから来年は、国の根幹を揺るがすような爆発が起きる可能性がとても高くなる年回りです。

例えば、南海トラフが予測されていますが、私のイメージとしては、ノアの方舟のような大洪水が起きると思った方が良いでしょう。とんでもない津波が来るかもしれません。この辺りでも、渡良瀬川沿いの農家には、ひと昔前まで屋根裏などに小舟が備えてあったそうです。大地震や大陥没も、地域丸ごと壊滅するような規模のものがあるかもしれません。

こういった災害はいつどこで起きるか分かりませんから、移動中には自分の命を守る食べ物・飲み物を常時持っておくと良いでしょう。例えば、最低限チョコレート1枚でも持ち歩く。無意識でポケットにチョコレートを入れてあれば、何かの時に命を繋げることになるかもしれません。私は、水を持ち歩くのは結構大変なので、来年は水に変わる何かを持ち歩きたい、無意識のうちに身につけておくようにしたいと思っています。

それから、日本の国の中でどこかが爆発しても日本列島全部が駄目になることはないでしょうから、知り合いで相互扶助できるような関係を意識的に作っておくべきでしょう。できれば疎開先を作っておくことをお勧めします。更に、無意識で何かあったらそこに集まれるような手立てをしておくべきでしょう。

なぜこんなことを申し上げるかという、毎年同じようなことを言っていますが、来年は有り得る年回りだからです。会社や国で考えれば、来年はとんでもなく経済が落ち込む危険性があると思っています。再来年オリンピックの年はちょっと休憩で、その次の年はより鮮明に見えて来るでしょう。

いずれにしても来年は大きく動く年です。命の存続にかかわる、自分の財産に大きく関わるものが大きく揺れ動く年になります。理由は、「亥」だからです。

干支については、来年1月発行の「知足」48号をご覧ください。今年の1月の「知足」に書いた「ひやひやの綱渡り」が続いて基本的なところで変化はない。より切迫度が増していると書いてあります。

地獄のような働き方

時事評論は先程、ゴーン事件について申しましたが、その他にいくつか取り上げましょう。

・**車 住宅 1670 億円減税** (12/15 読売新聞)・・・これを見て、「減税だ、嬉しい」と思う方はおられますか？ 私は、何という小手先の誤魔化しをやるのかと思いました。こういう書き方をするのは、新聞が政府に付度して迎合している表れです。目の前の小さなことで誤魔化して、別のことを隠そうとしているからだと見えます。

・**10 大学 差別や優遇** (12/15 読売新聞)・・・医学部入試について、全国の 10 大学で不適切、又は不適切な疑いのある入試が判明したとあります。その中で、「過酷な労働環境背景」という小見出しで、順大の男性准教授が「医師がどれだけ地獄のような働き方をしているかを知って欲しい」とあります。こういう発言はよいと思います。自分自身が関係している所を比べて見れば、こう思っている人は日本に沢山いることでしょう。

横の知識で当てはめると、国民年金だけでみると、収入は月に 6 万円くらいでしょう。夫婦で 12、3 万で暮らさなければならぬ人がどんどん増えています。それについて政府は何もしませんという書き方です。しかも、そういう人達からも介護保険はしっかり取っています。

介護の現場では、前にも申しましたが、3 年に一度介護報酬を見直して、会社に払われる介護報酬が減るわけです。しかし、職員の給料を下げる訳にはいきませんから、介護の会社は今、どんどん倒産しています。当然、職員は職を失います。尚且つ、政府はまた介護の人達の給料を上げると言明していますが、実際には条件がいくつも出て来て、それをクリア出来たら宝くじみたいに給料を上げるという制度を作っています。ふざけるなどと思いますね。言葉の誤魔化し、口先の誤魔化しだけで、いつまでも国民は騙し続けられない。今、日本はそういう状況下に来ているのだと思っています。

ということで新聞を眺めると、日本という国がどれだけ低レベルになったかということが分かります。低レベルというのは、如何に「アホ」になったかと同じです。

最近聞いた話で、中国は如何に凄いかが分かるという内容の話をお願いします。取引先に「こういう物を作りたいけれどサンプルが欲しい」と夕方話をしたそうです。そうすると、日本の企業が 3、4 日かかるところを、中国人は徹夜で、皆で考えてサンプルを拵えて翌日には持ってくるというのです。終戦後の日本は、豊かになりたいと思って必死になって働きました。それが当たり前でした。かつての日本人が駆け上がっていく時の成長、労力、スピードと、中国が今やっていることが同じように見えると言っていました。

日本人は豊かになりました。豊かになって、のんびりしている間に茹でガエルになった

から、経済大国3位に落ちてもまだまだ大丈夫だと思っています。他が駆け上がって来ているのです。そういう状況ですから、日本はこれからもっともっと落ちなければおかしいと思っています。

日本は今、「働くな！働くな！」です。欧米諸国は働くことは罰という考え方ですが、日本は働くことは美德とされてきました。働くことは良いことだと育ってきたのが、今は変わりました。ですから、落ちていくのは当たり前です。

知足 — 強欲資本主義の特効薬 —

基本哲学は「足るを知る」です。ゴーンさんは違いますね、もっともっとお金が欲しいと思っている。いったい何なのでしょう？

お金には魔物がついていると思います。ある程度増えると、お金がもっと友達が呼びたくなる。良い手段であろうが悪い手段であろうが、集めたくなる。それを断ち切らないと、人間としての成長はないと思います。

ロックフェラーやロスチャイルドしかりで、世界中からお金を集めようとしています。こういう人達に「知足」という考え方をしっかり植えつけることが出来れば、世界はとても平和になるだろうと思います。

先ほど、ゴーン事件の背景にあるのは、フランス政府と日本政府の経済戦争だと申しましたが、私はその後ろにもう一つあるだろうと思っています。各国の政府を煽っている金の魔物は、いったいどんな人達なのか？ それは全くベールに包まれて見えませんが、確実に後ろで、金が金を呼ぶからくりで各国を動かしていると思います。各国が動かされることによって、グローバルが生まれ、そして今やグローバルは行き詰まりました。グローバルを生んだ存在、強欲資本主義を生んだ存在が、もうグローバルも通貨も手詰まりだと考え、それに代わるものを生み出そうとしている。それが、これからの大きな時代の流れだと思います。向こう10年の間に、それが明確に現れるという気がします。そして、それに対する特效薬は、「知足」だと思っています。

以上、時事評論から繋がっていく時代背景を申しました。なぜ今、「知足」という考え方が必要かというのは、今の時代の流れに効く特效薬だと感じるからです。これは日本だけの話、一国だけの話ではないと感じます。それで、本日のテーマ「悟り」に繋がります。是非、『木内信胤語録』をじっくり読んで戴きたいと存じます。

お時間になりました。来年は相当揺れ動く年なので、自分自身習慣づけたものが無意識で出るように努力をして戴く年だと思っています。どうぞ良いお年をお迎え下さい。